

やまとの名品 天理図書館



けんりゅうどうはん が
乾隆銅版画

1774年刊 34枚（内、図版16枚）
縦57cm 横93cm

中国清朝期の皇帝・乾隆帝（一七一〇～九九）は、潤沢な国力の下、十度の中央アジア遠征を行い、その全てに勝利し領土を拡大していった。現在の中国の国境線はほぼこの時代に形作られた。また、その勝利を記念すると共に、自分の功績を後世に伝えるため、戦闘場面の銅版画を作成した。

当時、宮廷画家として仕えていたヨーロッパ出身の宣教師らが原画を描いたが、彼らは直接戦地に赴き、スケッチをして記録を残した。今で言う「戦場カメラマン」である。この原画を銅版画の本場・フランスに送って刻印させた。清の皇帝からの

依頼とあって、フランス側も万全を期し、著名な彫刻家を厳選して作業に当たらせ、高級紙を用いて、十六枚の戦図二百部を完成させた。原画が送られてから完成まで九年の歳月を要した。

掲出図は、北西部のジュンガル帝国（準部）と西部のウイグル（回部）との戦いを描いた『準回兩部平定得勝図』の一つ。精細・鮮明で、絶妙に陰影を付けることにより、立体感が見事に表現されており、当時のフランスの銅版画技術の高さが窺える。東西文化の交流



という視点からも、大変貴重な逸品である。

（天理図書館 森山恭二）

天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○7月の休館日：29日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）